

英米学科 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

外国語学部英米学科は、基盤教育による基盤力に加え、英米学に関する専門教育を通して、以下の能力を有すると認めた者に学士（英米学）の学位を授与します。

■ 豊かな「知識」

世界の文化的・社会的事象に関わる幅広い知識を基盤に、コアとなる「英語学・英語教育」「国際文化社会」「ビジネス」のいずれかの専門分野に関する知識を体系的・総合的に身につけている。

■ 知識を活用できる「技能」

英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）の修得に加え、英米及び英語圏を中心に世界の文化・社会的な背景の理解のもと、国際社会で活躍するために必要な高度な英語を適切に運用できる能力を身につけている。

■ 次代を切り開く「思考・判断・表現力」

流動的に変化している国際情勢や世界の文化・社会の諸問題に関する学修を通して、グローバルな視点から事象を多面的に捉え、学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、多様な人種や文化を背景に持つ社会の中で、自分の意見を英語で明晰に表現することができる。

■ 組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション」

広く国際的な視野を身につけるための学修を通して、多種多様な国籍の文化や言語を背景に持つ他者と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

■ 社会で生きる「自律的行動力」

英語や異文化に関する学修を通して、文化・社会への関心とキャリア意識を持ち続け、広い視野を持つ国際人として、主体的に行動できる。

～その基盤力として、基盤教育で次の力を身につけます～

- ・地域・環境・世界(地球)の分野を中心として、社会で生きていくための基盤となる幅広い知識を有している。
- ・英語などの基礎的運用能力、情報リテラシー、資料等を読み解く技能を身につけている。
- ・多様なものの見方、考え方、価値観などを理解し、思考・判断することができる。
- ・個人の異なる生き方や価値観を理解し、社会と調和し、組織や社会の活動を促進することができる。
- ・他者との関わりの中で自己を律し、自己のキャリア形成に向けて継続して学び、公共性、倫理性を持って行動できる。

※ 基盤力の詳細は基盤教育センターのページを参照

英米学科 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

外国語学部英米学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

教育課程の編成

(編成の方針)

- 1 英米学科では、高い英語運用能力を1、2年次のうちに修得できるよう英語の集中プログラムを編成し、海外留学等を目指すほか、科目の性質をふまえながら、学生のレベルに応じた英語による専門教育を編成する。英語による論文作成を目標に、3、4年次に演習科目を編成する。
- 2 専門教育は、世界の文化的・社会的事象に関わる幅広い知識とともに、「英語学・英語教育」「国際文化社会」「ビジネス」の専門分野に関する知識、思考力を、学生のキャリア意識を高めつつ、学生の選択に応じて、体系的・総合的に修得できるよう、コアプログラム制を編成する。
- 3 主体的に多様な人種や文化と交流できることを目的として、留学のほか、海外ボランティア活動、地域の国際活動等の実践科目を配置する。
- 4 以上の専門教育科目に加え、社会で生きていくための基盤力を育成する基盤教育科目をもって英米学科の教育課程を編成する。

(教育課程の構成)

※()は卒業に必要な最低単位数で、卒業要件単位数124単位の内訳

英米学科の教育課程は、編成の方針に基づき、専門教育科目(84)と基盤教育科目(40)で構成する。

専門教育科目は、「Academic English」、「専門入門科目」「English Studies 科目」「実践科目」「ゼミ・卒業課題科目」の5つの科目群から成り、各科目群の編成は次のとおりとする。

- 1)「Academic English」(8)は、英語集中プログラムの専門課程としてアカデミックな英語を学ぶための科目群として、1、2年次に配置する。また、海外の大学院への進学、また広くキャリア形成に役立てるための科目を4年次に配置する。
- 2)「専門入門科目」(6)は、2年次の1学期終了後において自己のベースとなる専門領域を決定できるよう、1年次に授業科目を配置する。
- 3)「English Studies 科目」(40)は、「Language and Education」「Society and Culture」「Global Business」の3つのコアプログラムから一つ以上を修得できるよう順次的、体系的に科目編成する。

- ・Language and Education Program …英語を学問的に研究し、主に教職を目指す学生向けに、英語学、英語教育関連科目を配置する。
- ・Society and Culture Program …世界の文化・社会事象を学び、問題解決に向けて考え、行動できる人材を育成するため、文学、地域研究、通訳・翻訳、国際社会、文化、メディアなどに関連した科目を配置する。

・Global Business Program・・・流動的な国際ビジネスを学び、グローバルに活躍できる人材を育成するため、観光ビジネス、国際経営、経営組織、経営戦略などに関連した科目を配置する。

4)「実践科目」(2)は、実践力を修得するための「特定課題科目」及び海外体験・語学研修等の「留学プログラム科目」を配置する。

5)「ゼミ・卒業課題科目」(12)は、各プログラムにおいて専門分野における課題発見・解決力とプレゼンテーション力を高め、卒業論文を作成するため、3、4年次に必修科目として配置する。

教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習(PBL)、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど能動的学習(アクティブ・ラーニング)の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。

また、学生の実践力の育成とキャリア意識の醸成のため、国内外インターンシップ、国際ボランティア等への参加を積極的に奨励し評価する。

- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、学修行動調査などによる調査・把握を行いながら、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。
- ・ 単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限を各学期 26 単位とする。

学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認められた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 3年次に進級するためには、2年次終了までにおいて、所定の科目を含めた 48 単位、また卒業の要件は、所定の科目を含めた 124 単位以上の修得を必要とする。
- ・ 各授業科目の成績を基礎とした総合的な学業成績として、累積 GPA を算出し、成績優秀者表彰や早期卒業、留学対象者の選定などに用い、学修意欲の向上を図る。
- ・ 学生への授業評価・学修行動調査等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望をはじめ、学修達成状況などを把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。

英米学科 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学部英米学科は、次のような人を求めます。

（求める学生像）

- 世界の文化や情勢、社会、経済に高い関心を持ち、世界的な視野を持って意欲的に学び、自ら情報発信にも積極的な人
- 英語による高度なコミュニケーション能力の獲得を目指し、積極的に努力する人
- 国際社会での活動に熱心に取り組み、言語・文化・ビジネスの領域を中心にキャリア形成を図ろうとする意欲を有した人

（求める能力、入学者選抜における重点評価項目） ※特に評価する項目に「○」をつけています。

		知識・技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
求める能力		・英語および英語圏の文化・社会・ビジネス分野について学ぶために必要な幅広い基礎学力を身につけている。	・英語圏を中心に世界の文化・社会について英語で自分の考えを述べるために必要となる思考力・判断力・表現力を身につけている。	・異文化圏の人々と積極的に交流・協働し、相互理解を深め新しい価値の創造を目指す姿勢を持っている。
一般選抜 （前期日程）	大学入学共通テスト	○		
	個別学力検査 （外国語：英語（コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ））	○	○	
一般選抜 （後期日程）	大学入学共通テスト	○		
	小論文		○	
学校推薦型選抜（国推薦）	基礎学力テスト等 （英語による面接 （推薦書、入学希望理由書））		○	○
	調査書			○
学校推薦型選抜（地域推薦）	英語による小論文		○	
	推薦書・調査書	○		
総合型選抜	基礎学力テスト等 ＜1次選考＞ 英語による模擬授業 筆記試験		○	
	面接（模擬授業に関するディスカッション、自己推薦書を含む。）			○
帰国子女学生特別選抜	個別学力検査等 日本語小論文 英語小論文		○	
	面接			○
外国人留学生特別選抜	日本留学試験	○		
	個別学力検査等 日本語小論文		○	
	面接 （TOEFL 又は TOEIC）	○		
編入学	個別学力検査等 英語		○	
	面接 （入学希望理由書）			○